

項目別関連情報(米国・カナダ)(修正版)

2005年9月

資料 3

| 米国 生体牛 侵入リスク 1980-2003 出典「アメリカGBRに対するWG報告2004(EFSA) (米国諮問資料31)」「米国におけるBSEの可能性についての評価(ハーバード大学リスク分析センター)」ほか | | |
|--|--|--|
| 規制 | | <ul style="list-style-type: none"> ・1989年 英国・BSE発生国からの反すう動物、反すう動物由来肉骨粉の輸入禁止 ・1991年 BSE発生国からの牛肉等反すう動物の肉の輸入禁止 ・1997年 欧州全域からの反すう動物、反すう動物の肉骨粉の輸入禁止 ・2000年 欧州からの全動物の肉骨粉の輸入禁止 (6/10 補足資料 BSE対策時系列) |
| 輸入元 | CD (米国からEUへの報告) 0 内はEurostat等の 輸出データ(単位/頭) | 備考 |
| | 1980-2003 | |
| 英国 | 323 (327) リスク考慮外の117頭を引くと 206 (210) | <ul style="list-style-type: none"> ・1990-1992年にカナダ経由で10頭輸入されている。 ・輸入牛のうち96%…肉用繁殖牛、4%…乳牛 ・UKから輸入された牛は1995年にトレースバック(遡及調査)され、1995年時点で生存していた牛117頭は処分(診断用試料が採取され、屠体は焼却)された。(組織病理学およびIHC検査にて、全てBSE(-))。これら117頭中52頭はBSE発症牛群からの牛であった。 ・ハーバードのリスク評価によると、1981年1月～1989年7月に米国はUKから334頭を輸入し、このうち161頭は、食品・飼料に混入する可能性のない方法で殺処分された。残りの173頭はBSE発症牛群に属していなかったが、レンダリングに回った可能性はある。この173頭のうち164頭(94.8%)…肉用繁殖牛、9頭(5.2%)…乳牛 |
| 欧州(英国除く) | 563 (1,762) リスク考慮外の数を引くと 497 (1,711) | <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバードのリスク評価によると、1983年-1987年の間にスイス、フランス、イタリア、ベルギーから397頭の繁殖牛が輸入された。 |
| アイルランド | 162 (233) リスク考慮外の26頭を引くと 136 (233) | <ul style="list-style-type: none"> ・CDによると、この162頭中26頭(22頭はトレースバックによりアメリカのレンダリングから除外され、4頭は隔離所で出生したことが明らかになっている)はBSE侵入リスクとして考慮されなかった。 |
| ベルギー | 6 (6) リスク考慮外の数を引くと 0 (6) | |
| ドイツ | 46 (430) リスク考慮外の数を引くと 18 (430) | <ul style="list-style-type: none"> ・CDによると1996-1997年にかけてこれら4カ国から40頭の繁殖牛が輸入された。(40頭の内訳は、ベルギー6頭、ドイツ28頭、オーストリア3頭、イタリア3頭)この40頭はトレースバックされた結果アメリカのレンダリングに入ったものはいなかったため、リスクとして考慮されていない。 |
| オーストリア | 3 (0) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | <ul style="list-style-type: none"> ・イタリアより1981年に輸出された2頭(Eurostat)についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 |
| イタリア | 8 (23) リスク考慮外の数を引くと 5 (21) | |
| デンマーク | 0 (12) | <ul style="list-style-type: none"> ・CDとEurostat間で大きな数差あり。(CDでは0頭となっている) |
| オランダ | 0 (607) リスク考慮外の数を引くと 0 (558) | <ul style="list-style-type: none"> ・CDとEurostat間で大きな数差あり。(CDでは0頭となっている) ・1982年に輸出された49頭(Eurostat)についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 |
| フランス | 235 (403) | |
| スイス | 103 (48) | |
| カナダ | 16,655,685 (15,494,687) リスク考慮外の数を引くと 13,019,248 (11,689,972) | <ul style="list-style-type: none"> ・1986年以降、毎年23万5千～170万頭輸入。 ・1992年以前に輸出された3,636,437頭(他のデータでは3,804,715頭)についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 ・80%以上が肥育・と畜用牛であり、輸入牛の20%がBSE侵入リスクとして考慮された。 |
| 日本 | 242 (0) | <ul style="list-style-type: none"> ・トレースバックの結果、最大39頭がレンダリングされた可能性あり。 |

米国 肉骨粉 侵入リスク 1980-2003
(出典「アメリカGBRに対するWG報告2004 (EFSA)」)

| 規制 | | |
|-----------|--|---|
| 輸入元 | CD (米国からEUへの報告) ()内はEurostat等の輸出データ (単位/トン) | 備考 |
| | 1980-2003 | |
| 英国 | 5 (140) リスク考慮外の数を引くと 5 (24) | <ul style="list-style-type: none"> 1989年の39トンは、イギリスの改訂輸出統計では確認できていないので、GBRではリスクとして考慮していない。 1997-1999年の77トンは非哺乳動物性MBMのみを含むものと考えられる(1996/3/27以降UKからのほ乳動物MBMの輸出は違法)ので、GBRではリスクとして考慮していない。 ハーバードのリスク評価には「1980年～1990年の間に米国に輸入された飼料の種類およびその配合を示す確かなデータは存在しない。」との記載がある。 |
| 欧州 (英国除く) | 684 (2, 129) | |
| デンマーク | 464 (382) | <ul style="list-style-type: none"> これらの輸入は反芻動物由来ではないので米国のBSEリスクの一因とはなっていないとの主張がなされたが、実証されていない。 |
| フランス | 165 (0) | |
| イタリア | 36 (1, 376) | |
| オランダ | 19 (118) | |
| ベルギー | 0 (10) | <ul style="list-style-type: none"> これらの国は、CDでは0トンとなっているがEurostatでは輸出があったことが示されている。 |
| ギリシャ | 0 (55) | |
| アイルランド | 0 (180) | |
| スペイン | 0 (8) | |
| カナダ | 405, 863 (227, 572) リスク考慮外の数を引くと 329, 942 (227, 572) | <ul style="list-style-type: none"> 1989年以降、年間18000～44000トンの肉骨粉が輸入されている。 1992年以前に輸出された75, 921トン (他のデータでは0トン)についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 |

カナダ 生体牛 侵入リスク 1980-2001
(Working Group Report on the Assessment of Geographical BSE-Risk (GBR) of CANADA 2004より)

| 規制 | <ul style="list-style-type: none"> 1988年 米国以外の国から肉骨粉の輸入禁止 1990年 英国およびアイルランドからの生体牛の輸入禁止 BSE清浄国からの肉骨粉の輸入解禁 BSEについて輸出を義務付け 1991年 BSE発生源からの牛肉製品の輸入禁止 1994年 BSE発生源からの生体牛の輸入禁止 1996年 BSE清浄国以外からの生体牛、牛肉製品の輸入禁止 2009年 BSE清浄国以外からの全動物種の動物性加工蛋白質の輸入禁止 (補足資料 BSE対策時系列) | |
|----------|---|---|
| 輸入元 | CD (country dossier) 0内はEurostat等の輸出データ (単位/頭) | 備考 |
| | 1980-2003 | |
| 英国 | 231 (55) リスク考慮外の数を引くと 117 (19) | <ul style="list-style-type: none"> CDによると1991年以降からの生体牛が輸入されたとの記録はない。 Eurostatによると1993年に500頭が輸入されたとある。この輸入は、Eurostatと更新版UK輸出統計では「雄の仔牛である」と言われているが、オリジナルのUK輸出統計では言及されていない。 詳しい調査を行った結果、この500頭の輸入は非常に疑わしいという結果になった。このためこの500頭はリスクとして考慮されなかった。 さらに、CFIAが行ったカナダのBSEリスク評価の中でも、「90年以降からの輸入実績はない」と記載されている。 CDによる1980-1990年の231頭の内訳： 188頭…と殺 3頭…死亡 (レンダリングシステムに入った可能性あり) 37頭…英国へ返送 74頭…焼却 1頭…埋葬 (レンダリングシステムに入っていないので、リスクとして考慮せず) (EFSA カナダGBR 2004) 1978年以降、BSE汚染国から畜産の飼料用の肉骨粉は輸入されていなかったため、カナダへのBSEの侵入は1980年代の英国からの生体牛による可能性が高い。 アルバータ州において、1993年にBSEが発見されたが、これは英国から輸入した牛で、その後、同年に英国から輸入された牛で生育していたものはすべて検査され、淘汰、焼却もしくは英国へ返送された。 英国から輸入され1980年代後半に死亡、もしくはと殺され、レンダリング処理されて動物用飼料システムに入った可能性のある牛は、1990年までで最高68頭存在する。そのうちBSEが発見された農場から出荷されたのは10頭で、さらにそのうちの2頭は、1993年の輸入感染牛の出生コホート集団に属していた(カナダ訪問参考資料14) |
| 欧州(英国除く) | 308 (324) リスク考慮外の数を引いて 250 (291) | |
| アイルランド | 15 (20) リスク考慮外の数を引くと 0 (2) | <ul style="list-style-type: none"> 1980-1990年の16頭 (Eurostatでは20頭)の内訳：3頭…と殺 3頭…死亡 4頭…焼却 これらはレンダリングシステムに入っていないので、リスクとして考慮しなかった。 |
| ハンガリー | 0 (12) | |
| ドイツ | 7 (4) | |
| オーストリア | 9 (0) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | <ul style="list-style-type: none"> 1987年以前に輸出された9頭 (他データでは0頭) についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 |
| イタリア | 11 (15) リスク考慮外の数を引くと 0 (4) | <ul style="list-style-type: none"> 1982年以前に輸出された11頭 (他データも11頭) についてはGBRでリスクとして考慮されていない。 |
| デンマーク | 28 (28) リスク考慮外の数を引くと 77 (77) | <ul style="list-style-type: none"> 28頭のうち19頭は2000年に輸入されたバッファロー (内訳：1頭…焼却 18頭…廃棄) である。 バッファロー以外の9頭の内訳：1頭…輸出 1頭…廃棄 その他…不明 |
| オランダ | 1 (1) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | <ul style="list-style-type: none"> 1984年以前に輸出された1頭 (他データも1頭) についてはGBRではリスクとして考慮されていない。 |
| フランス | 201 (203) | |
| スイス | 35 (41) | |
| アメリカ | 2,377,697 (1,500,001) リスク考慮外の数を引くと 1,558,032 (1,295,520) | <ul style="list-style-type: none"> 毎年16000-34000頭の牛がアメリカから輸入されている。これらのほとんどが去勢牛、未産牛である。 アメリカからの輸入牛の90%は肥育用、と殺用牛である。 1997以前の31965頭 (他データでは204,481頭) はGBRではリスクとして考慮に入れていない。 |
| 日本 | 18 (0) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | <ul style="list-style-type: none"> 日本からは22頭以上の牛が(アメリカ経由で)輸入されている。 内訳：4頭…輸出 (返送) 14頭…廃棄 4頭…と殺 (返送された4頭は左記の数字からは除かれている) これらはレンダリングシステムに入っていないので、リスクとして考慮されていない。 |

・1980年代の中期に輸入された牛が、1980年代後半にレンダリングされ、その製品が利用されたために、1990年代の初めに感染が顕著に拡大した可能性がある。(EFSAカナダGBR 2004)

・BSEに感染した牛が、カナダで食肉加工される、もしくはその一部がレンダリングされ飼料になるリスクは、1980年代に牛が英国より輸入され、と畜された1990年代の初めに発生したと思われる。このリスクは引き続き存在し、カナダ国内の牛が輸入肉骨粉により感染し、食肉加工に供された1990年代の中期に著しく増大した。国内感染の管理に対する防衛対策の安定性が不十分だったためBSEリスク国から引き続き牛や肉骨粉が輸入されるに伴い、リスクは増大した。(EFSAカナダGBR 2004)

カナダ 肉骨粉 侵入リスク 1980-2003
(Working Group Report on the Assessment of Geographical BSE-Risk (GBR) of CANADA 2004より)

| 規制 | | |
|---|---|---|
| 輸入元 | CD (country dossier) ()内はEurostat等の輸出データ (単位/トン) | 備考 |
| | 1980-2003 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・1988年 米国以外の国から肉骨粉の輸入禁止 ・1990年 英国およびアイルランドからの生体牛の輸入禁止 BSE清浄国からの肉骨粉の輸入解禁 BSEについて届出を義務付け ・1991年 BSE発生国からの牛肉製品の輸入禁止 ・1994年 BSE発生国からの生体牛の輸入禁止 ・1996年 BSE清浄国以外からの生体牛、牛肉製品の輸入禁止 ・2000年 BSE清浄国以外の全動物種の動物性加工蛋白質の輸入禁止 (補足資料 BSE対策時系列) | | |
| 英国 | 0 (149) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | <ul style="list-style-type: none"> ・Eurostatによると、1993~1996年のMBMは非哺乳動物性MBMである。ゆえにリスクとして考慮されなかった。 ・1996/3/27以降、英国からの乳動物のMBMの輸出は違法となったので、この日以降の輸入MBMは非哺乳動物性MBMのみを含むものと考えられる。よってこれらもリスクとして考慮されなかった。 |
| 欧州 (英国除く) | 11,046 (5,710) リスク考慮外の数を考慮すると 0 (11) | |
| デンマーク | 10,946 (5,661) リスク考慮外の数を考慮すると 0 (0) | ・デンマークからのMBMは豚肉、鶏肉由来であり、水産養殖のために輸入された。よってリスクとして考慮しなかった。 |
| フランス | 1 (13) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | ・フランスからのMBMは鳥類由来で、水産養殖のために輸入された。よってリスクとして考慮しなかった。 |
| ドイツ | 99 (0) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | ・ドイツからのMBMは鶏肉由来で、水産養殖のために輸入された。よってリスクとして考慮しなかった。 |
| ベルギー | 0 (25) リスク考慮外の数を引くと 0 (0) | ・ベルギーからのMBMはヘモグロビンである。よってリスクとして考慮しなかった。 |
| アイルランド | 0 (11) | |
| 日本 | 26 (0) | |
| アメリカ | 287,103 (351,673) リスク考慮外の数を引くと 252,334 (312,329) | <ul style="list-style-type: none"> ・主要なMBM輸入元はアメリカであり、CDによると毎年25万トン、他の情報では毎年31万トンが輸入されている。 ・1992年以前の34,769トン(他のデータでは39,344トン)は、GBRのリスク評価として考慮されなかった。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・UK、デンマーク、フランス、ドイツ、ベルギーからのMBMは上記のように非反芻動物性のMBMなので、リスクとして考慮されなかった。 ・1990年代初めに輸入された肉骨粉がカナダ国内の牛に与えられ、感染の循環、拡大につながった可能性がある。 | | |